

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第4号を下記のとおり発表したので送付します。

平成26年度病虫害発生予報第4号

平成26年 7 月 2 日
岡 山 県

予 報 概 評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち	—	並
	穂いもち	並	並
	紋枯病	並	並
	ヒメトビウンカ	—	やや少
	縞葉枯病	—	並
	ツマグロヨコバイ	—	やや少
	ニカメイガ	—	並
	セジロウンカ	遅	少
	トビイロウンカ	並	並
	斑点米カメムシ類	—	並
モ モ	せん孔細菌病	—	並
	灰星病	やや遅	やや少
	モモハモグリガ	遅	少
	ナシヒメシンクイ	—	やや少
	ハダニ類	—	並
ブドウ	晩腐病	—	やや少
	べと病	遅	やや少
	うどんこ病	やや遅	やや少
	フタテンヒメヨコバイ	やや遅	やや少
	チャノコカクモンハマキ	並	並
果樹共通	カメムシ類	—	やや多
キュウリ	べと病	—	やや多
	うどんこ病	—	やや多
	褐斑病	—	やや多
	炭疽病	並	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
トマト	疫病	—	やや少
	葉かび病	—	やや多
(アブラナ科野菜) ダイコン	軟腐病	—	やや少
	キスジノミハムシ	—	並
	コナガ	—	やや少
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	やや多
	アブラムシ類	—	やや多
	モザイク病	—	並
キ ク	白さび病	—	やや多
	ハダニ類	やや遅	やや少
	アブラムシ類	並	やや多

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月19～20日の巡回調査によると、県中部の移植直前の苗に葉いもちの発生を認めた。発生圃場率は1.1%で平年(2.0%)並であった。

イ. BLASTAM-メッシュ岡山版(以下、ブラスタム)による葉いもちの感染好適条件は、6月22日に県内で広域的に出現した。ブラスタムの最新結果は下表のとおりである。

ウ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する。

防除上の参考事項

ア. 補植用の苗は、伝染源となるので処分する。

イ. 箱処理剤を使用していない圃場では、発生を確認後は速やかに防除を行う。箱処理剤を使用している圃場で発生を確認した場合は、箱処理剤と同系統の薬剤の使用を避ける。

ウ. 現時点で未発生圃場でも耐病性の弱い品種(コシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリ、朝日)は初発後の病勢の進展が速いので、早期発見、早期防除に努める。

エ. 本病は、曇雨天日が多い場合に発病が助長されるので今後の気象に注意する。
平成26年度植物防疫情報第1号(平成26年6月23日発表)「イネいもち病(葉いもち)の発生に気をつけてください!!」参照。

表 アメダスデータから推測される葉いもちの感染好適条件の出現状況

(BLASTAMメッシュ岡山版)

地 帯 区 分	北部地帯					中部地帯					南部地帯				
	上 長 田	千 屋	奈 義	古 町	新 見	久 世	津 山	福 渡	和 気	高 梁	岡 山	虫 明	倉 敷	笠 岡	玉 野
6. 15	—	—	●	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16	—	—	●	—	○	●	●	—	—	—	—	—	—	—	—
17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	○	○	●	—	—	●	●	—	—	—	—	—	—	●	—
19	—	—	●	●	—	●	●	—	—	—	—	—	—	—	—
20	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	—	—	●	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	○	○	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—
23	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	●	—	—	—
26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
28	—	—	—	—	●	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—
29	○	○	●	●	●	●	●	—	—	●	—	●	—	●	—

●：感染好適条件 ○：準感染好適条件 —：感染好適条件は現れなかった

(2) 穂いもち(極早生種対象)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- ア. 極早生種の生育はほぼ平年並である。
- イ. 6月19～20日の巡回調査では、県中部の移植直前の苗に葉いもちの発生を認めた。
- ウ. BLASTAM-メッシュ岡山版（以下、ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件は、6月22日に県内で広域的に出現した。
- エ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する。

防除上の参考事項

- ア. 本病は、曇雨天日が多い場合に発病が助長されるので今後の気象に注意する。
平成26年度植物防疫情報第1号（平成26年6月23日発表）「イネいもち病（葉いもち）の発生に気をつけてください！！」参照

(3) 紋枯病

予報内容

- 発生時期 並
- 発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月19～20日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。
- イ. イネの茎数は平年並である。
- ウ. 前年の発生量は平年並であったため、越冬菌密度も平年並と考えられる。
- エ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(4) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

- ヒメトビウンカ（第2世代幼虫）
- 発生量 やや少
- 縞葉枯病
- 発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における第1世代の初飛来は5月17日で平年（6月10日）より早く、6月1～5半旬の飛来数は1頭で、平年（10.0頭）より少なかった。
- イ. 6月19～20日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）による発生圃場率は44.4%で平年（50.1%）並で、1地点あたりの成幼虫発生量は1.8頭で平年（2.1頭）並であった。
- ウ. 縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカの県予察圃場における本年の保毒虫率は17.7%と平成24年までの過去10年間（平成16～20年は欠測）の平均保毒虫率（4.6%）より高かった。
- エ. 近年の県南部における縞葉枯病の発生は、平年並で推移している。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

- ツマグロヨコバイ（第2世代幼虫）
- 発生量 やや少

- ア. 赤磐市の予察灯における第1世代の初飛来は5月31日で平年（6月6日）より早く、6月1～5半旬の飛来数は34頭で、平年（155.1頭）より少なかった。
- イ. 6月19～20日の巡回調査における見取り・払い落とし調査による発生圃場率は10.3%で平年（11.0%）並であった。
- ウ. 6月19～20日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）では、成幼虫の発生量は0.2頭で平年（1.3頭）より少なかった。
- エ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降

水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。
防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年巡回調査において発生を認めていない。

(6) ニカメイガ (第1世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて6月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生時期 遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯において6月5半旬までに飛来を認めていない(平年の6月1～5半旬の飛来数は10.3頭)。

ウ. 6月19～20日の巡回調査におけるすくい取り調査(20回振り)では、1地点あたり成虫発生量は0頭で平年(1.0頭)より少なかった。

エ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市及び真庭市の予察灯において平年同様6月5半旬までに飛来を認めていない。

イ. 6月19～20日の巡回調査において発生を認めなかった。

(9) 斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における6月1～5半旬の誘殺数は71頭で平年(70.8頭)並であった。

イ. 6月19～20日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)では、アカスジカスミカメの発生量は1地点当たり28.6頭で平年(27.3頭)並であった。

ウ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. イネ科植物の穂は餌であり、産卵場所でもあるため、水田周辺のイネ科植物は除去する。ただし、穂の付いたイネ科植物をイネの出穂2週間前から出穂後3週間の間に除去すると、カメムシを水田に追いやることになるので避ける。

2 果 樹

(モ モ)

(1) せん孔細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月18日の巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年（19.6%）よりやや低かった。
- イ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生助長要因である「昨年の8月中旬の発生ほ場数」は少ない（岡山県病虫害防除所調査）。
- ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 風雨によって発病が助長されるので、今後の気象に注意する。

(2) 灰星病

予報内容

発生時期 やや遅
発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 県予察圃場における幼果の発病果率は0.7%で、平年（4.4%）より低かった。
- イ. 6月18日の巡回調査では、果実での発生は認めていない。
- ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(3) モモハモグリガ（第3世代幼虫）

予報内容

発生時期 遅
発生量 少

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて第2世代成虫の初飛来は6月21日で、発生時期は平年（6月12日）より遅かった。
- イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける6月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年（76.2頭）より少なかった。
- ウ. 6月18日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（3.5%）より低かった。
- エ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

(4) ナシヒメシンクイ（第3世代幼虫）

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける6月1～5半旬の誘殺数は12頭で、平年（16.5頭）よりやや少なかった。
- イ. 6月18日の巡回調査における新梢被害発生圃場率は8.1%で、平年（17.3%）より低かった。
- ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月18日の巡回調査における被害発生圃場率は16.2%で、平年（18.0%）並であった。
- イ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) 晩腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月の降水量は全般的に平年より少なかったことから、幼果の感染も平年より少ないと考えられる。

イ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. ベノミル剤(ベンレート)及びアゾキシストロビン剤(アミスター)に対して感受性が低下した耐性菌が本県各地で確認されている(平成25年度植物防疫情報第3号参照)。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(ネオマスカット)における発生は認めていない(初発生確認の平年値:6月第2半旬)。

イ. 6月18日の巡回調査において発生圃場率は0%で、平年(7.4%)より低かった。

ウ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 梅雨時期の連続降雨により急に病勢が進展する可能性があるので今後の気象に注意する。

イ. ブドウべと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤(アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤)に対する耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤とできるだけ組み合わせて使用する。

(3) うどんこ病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月18日の巡回調査において、トンネル被覆栽培での発生を認めていない。

イ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を抑制する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月18日の巡回調査において発生を認めず、発生圃場率は平年(1.3%)より低かった。

イ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、本

- 虫の増殖を特に助長する条件ではない。
(5) チャノコカクモンハマキ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける6月1～5半旬の誘殺数は3頭で、平年(2.3頭)並であった。
イ. 6月18日の巡回調査では平年同様発生を認めなかった。
ウ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

(果樹共通)

- (1) カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来予測数は、チャバネアオカメムシは赤磐市が1175.7頭(平年496.5頭)で平年より多いと予測される。
イ. 赤磐市の予察灯における4月～6月5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は56頭で平年(137.6頭)より少なかった。
ウ. 赤磐市のフェロモントラップにおける4月～6月5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は、1,121頭で平年(616.5頭)より多かった。
エ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は増殖を抑制する条件となる。

防除上の参考事項

- ア. 平成26年度病害虫発生予察注意報第1号参照。

3. 野菜

(キュウリ)

- (1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 県予察圃場(5月12日定植)において、発病葉率は48.5%で平年(10.8%)より高かった。
イ. 6月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は75.0%で平年(53.1%)より高かった。
ウ. 6月26日発表の季節予報(1か月予報)によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

- (2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 県予察圃場(5月12日定植)において、発病葉率は2.2%で平年(0.4%)より高かった。
イ. 6月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は75.0%で平年(45.4%)より

高かった。

ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を抑制する条件となる。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）において、発病葉率は0%で平年（0%）並であった。

イ. 6月24～25日の巡回調査では発生圃場率は25.0%で、平年（29.6%）並であった。

ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(4) 炭疽病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）において、発病葉率は0%で平年（0%）並であった。

イ. 6月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（6.4%）より低かった。

ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(キュウリ、ナス)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月24～25日の巡回調査によると、露地、施設栽培のナス及びキュウリでの発生量は平年並であった。

イ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）において、発病葉率は0%で平年（0%）並であった。

イ. 6月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（3.7%）より低かった。

ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 県予察圃場（5月12日定植）において、発病葉率は0%で平年（0.2%）並であった。
- イ. 6月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年（24.0%）より高かった。
- ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

- ア. 本病の初発生時期（雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬）と病勢進展時期（7月下旬～8月上旬）に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。
- イ. 一部地域でCf-9を持つ抵抗性品種を侵すレースが確認されているので、発生を認めた場合には速やかに防除対策をとる（平成22年度植物防疫情報第4号参照）。
- ウ. 本県では、トマト葉かび病に類似した病徴を示すトマトすすかび病の発生が認められている（平成18年度病害虫発生予察特殊報第2号参照）。肉眼での判別は困難であるが、顕微鏡下で観察すれば、トマトすすかび病菌の分生子が細長い形状であることから葉かび病とは容易に区別できる。

（アブラナ科野菜）

（1）ダイコン軟腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 6月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で、平年（26.5%）より低かった。
- イ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

（2）キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

（3）コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 6月1～5半旬の県予察圃場（赤磐市）におけるフェロモントラップへの誘殺数は23頭で、平年（34.0頭）よりやや少なかった。
- イ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

（野菜共通）

（1）ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 6月1～5半旬の県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップの誘殺数は103

頭で、平年（51.0頭）より多かった。

イ. 6月24～25日の巡回調査によると、ナス、トマト、キュウリでの発生は認められず、発生圃場率は平年（0%）並であった。

ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

(2) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	やや多
	モザイク病	並

予報の根拠

ア. 6月1～5半旬の県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への飛来数は545頭で、平年（316.6頭）より多かった。

イ. 県予察圃場（赤磐市）における6月下旬のキュウリ、トマトでのアブラムシ類の発生量は平年並であった。モザイク病は、平年同様発生を認めなかった。

ウ. 6月24～25日の巡回調査によると、キュウリ、トマトのアブラムシ類の発生量は平年よりやや多かった。モザイク病の発生圃場率は、キュウリでは12.5%で平年（7.0%）よりやや高く、トマトでは0%で平年（13.0%）より低かった。

エ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. モザイク病の発病株は伝染源になるので早めに除去し、アブラムシ類の防除を行う。

4. 花き

(キク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 6月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は30.0%で平年（22.8%）よりやや高かった。

イ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(2) ハダニ類

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（14.8%）より低かった。

イ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

(3) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 6月1～5半旬の県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への飛来数は545頭で、平年（316.6頭）より多かった。

- イ. 6月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年（13.9%）より高かった。
- ウ. 6月26日発表の季節予報（1か月予報）によると、7月の気温は平年並で、降水量は平年並または多いとされており、本虫の増殖を特に助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。